



Simply Better Connections

VP1920

9入力2出カプレゼンマトリックス スイッチャー(4K対応) ユーザーマニュアル

本書 日本語マニュアルについて

この日本語マニュアルはATEN International Co., Ltdが作成している英語版ユーザーマニュアルを、日本国内のお客様が製品をご使用になる上での便宜を図るため、ATENジャパン株式会社にて機械翻訳ベースで作成したドキュメントです。用語・表現などは公開前に人為的な修正を加えておりますが、若干の表記ゆれなどが残っている可能性がありますので、ご理解願います。また、グローバル共通のマニュアルを翻訳したドキュメントであるため、日本国内でのお取り扱いがない機種が含まれている場合がありますことを、ご了承ください。

製品の取扱説明書としての整合性は英語版ユーザーマニュアルに準ずるものですが、万が一内容に不備・誤りなどがございましたら、誠にお手数ですが、ATENジャパン株式会社までお問い合わせさせていただきますよう、お願い申し上げます。

適合性に関する宣言

連邦通信委員会(FEDERAL COMMUNICATIONS COMMISSION INTERFERENCE STATEMENT)

本製品は、FCC(連邦通信委員会)規則のパート15に準拠したデジタル装置クラスAの制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供するためのものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

この機器は、FCC規則のパート15に準拠しています。動作は次の2つの条件を前提としています。(1)このデバイスが有害な干渉を引き起こさないこと、(2)このデバイスが、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、すべての干渉を受け入れなければならないこと。

FCCによる注意事項

本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告

この装置を居住地域で使用すると、電波干渉を引き起こす可能性があります。



HDMI商標に関する宣言

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。



RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称RoHS指令に準拠しております。

ユーザー情報

オンライン登録

ご購入の製品は、弊社のオンラインサポートセンターに登録をお願いいたします。

インターナショナル	http://eservice.aten.com
-----------	---

電話によるサポート

電話によるサポートをご希望の場合は、次の番号にお問い合わせください。

インターナショナル	886-2-8692-6959
中国	86-400-810-0-810
日本	81-3-5615-5811
韓国	82-2-467-6789
北米	1-888-999-ATEN ext 4988 1-949-428-1111

ユーザーの皆様へ

本書に記載された情報、資料および仕様は、改良その他の理由により予告なく変更されることがあります。製造元は、本書および本書に基づく契約内容について、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行いません。特に、商品性、特定目的への適合性、その他一切の黙示的保証を否認します。本書に記載された製造元のソフトウェアは、現状のまま販売またはライセンス供与されます。購入後にプログラムの欠陥が判明した場合、その修理、必要なサービス、または欠陥に起因して生じる付随的・派生的損害に関する費用は、購入者（メーカー、代理店、販売店を除く）が負担するものとします。

許可されていない改造や変更によって生じた無線やテレビへの干渉は、製造元は責任を負いません。干渉の解消はユーザーの責任となります。

正しい電圧設定を行わずに本システムを動作させた場合、製造元は生じたいかなる損害についても責任を負いません。ご使用前に必ず電圧設定をご確認ください。

製品情報

すべてのATEN製品について、また、制限なく接続できる方法については、弊社ウェブサイトアクセスするか、またはATEN販売代理店にお問い合わせください。所在地と電話番号の一覧については、弊社ウェブサイトアクセスして、ご確認ください。

インターナショナル	http://www.aten.com
北米	http://www.aten-usa.com

同梱品

すべてのアイテムが正常に動作しているか確認してください。問題が発生した場合は、購入元にお問い合わせください。

VP1920の製品パッケージには、下記のアイテムが同梱されています。

- VP1920本体 × 1
- 電源ケーブル × 1
- IRレシーバー × 1
- IRリモコン × 1
- クイックスタートガイド × 1

目次

適合性に関する宣言	i
ユーザー情報	ii
オンライン登録	ii
電話によるサポート	ii
ユーザーの皆様へ	ii
製品情報	iii
同梱品	iii
目次	iv
本マニュアルについて	viii
マニュアル表記について	ix
第1章 はじめに	1
概要	1
メリット	1
複数フォーマットのオーディオ・ビデオを高速切替	1
本体のUSBポート経由でPCやタッチパネルを操作可能	1
選択可能な表示モード(マトリックス、ミラー、PIP*)	2
ソースプレビュー機能	2

特長	3
シンプルなマルチフォーマットAV切替	3
HDビデオを最適な状態で出力	3
汎用的で合理的な操作	3
USB周辺機器の柔軟性を拡張	4
セットアップの計画	5
必要な機器	5
オプション機器	5
第2章 ハードウェアのセットアップ	6
製品各部名称	6
フロントパネル	6
リアパネル	8
IRリモコン	9
LEDインジケーター	11
ラックへのマウント	12
セットアップ	13
第3章 操作方法	15
概要	15
操作に関する考慮事項	15
表示ソースの切り替え	15
自動切替	15
手動切替	16
ミラーモードのソースの変更	17

表示モード	18
表示モードとは	18
表示モードの設定	18
PC/ノートパソコン/タブレットの操作	19
ハードウェアのセットアップ	19
操作方法	19
パネルプッシュボタンのロック	20
手動ロック	20
自動ロック	20
ファームウェアアップグレード	21
システム設定	22
全般設定	22
USB	23
オーディオ	23
ソース	25
メンテナンス	27
メニュー画面の終了	28
第4章 RS-232シリアルコマンド	29
概要	29
セットアップ	29
コマンドのガイドライン	30
コマンド	31
システムファームウェアバージョンコマンド	31

読み取りコマンド.....	31
ソース切替コマンド.....	31
自動切替コマンド.....	33
ディスプレイコマンドの有効化/無効化.....	37
表示モードコマンド.....	38
EDIDモードコマンド.....	38
HDCP認証コマンド.....	39
CECステータスコマンド.....	39
ミュートコマンド.....	39
ポーレートコマンド.....	40
スタンバイモードコマンド.....	40
デフォルト復元コマンド.....	40
ファームウェアアップグレードコマンド.....	40

付録..... 41

安全にお使いいただくために.....	41
全般.....	41
ラックへのマウント.....	43

技術サポート.....	44
インターナショナル.....	44
北米.....	44

仕様..... 45

ATEN標準保証ポリシー.....	48
限定ハードウェア保証.....	48

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、VP1920の概要と使用方法を解説しています。取り付け、セットアップ、操作の手順を順を追って説明します。

本書の構成は以下のとおりです。

第1章 はじめに:VP1920の概要、目的、機能、設置時の注意点を紹介します。

第2章 ハードウェアのセットアップ:本体各部の名称と機能、付属IRリモコンの詳細、安全かつ迅速なセットアップ手順を説明します。

第3章 操作:パネル操作やシステム設定の方法を説明します。

付録:製品仕様、関連技術情報、補足的な操作方法を掲載します。

注意:

- ◆ 製品本体や接続機器が破損しないように、必ず、本マニュアルの内容に従ってセットアップや操作を行ってください。
 - ◆ ATENでは新規仕様を反映させたファームウェアや関連ドキュメントを定期的にウェブサイト公開しています。最新のVP1920マニュアルについては、<http://www.aten.com/global/en/>をご覧ください。
-

マニュアル表記について

このマニュアルでは、次の規則を使用します。

- [] 入力するキーを示します。例えば[Enter]はEnterキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記しています。
- 1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作してください。
- ◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順ではありません。
- > 矢印は操作の手順を示します。例えば、「スタート」>「実行」は「スタート」メニューを開き、「実行」を選択する操作です。
-  重要な情報です。

第1章 はじめに

概要

ATEN VP1920は、ビデオマトリックス切替、オーディオ処理、アナログ／デジタル変換を統合した3-in-1プレゼンテーションスイッチです。9系統の入力と2系統の4K出力を備え、効率的で質の高いプレゼンテーションを実現します。

制御はフロントパネルのプッシュボタン、IRリモコン、メニュー画面、RS-232に対応。システム機器の削減と操作の簡素化を可能にします。

会議室、教室、ショールーム、ホテルの宴会場など、小規模から中規模の企業や教育機関のプレゼンテーション環境に最適です。

メリット

複数フォーマットのオーディオ・ビデオを高速切替

VP1920は、6系統のHDMI入力と3系統のコンボ入力（HDMI／VGA、HDMI／DisplayPort、HDMI／コンポーネント／コンポジット）から、2系統のHDMI出力へ素早く切り替えられます。さらに、同軸、Toslink、ステレオの各オーディオ出力にも対応しています。

本体のUSBポート経由でPCやタッチパネルを操作可能

VP1920は、本体のUSBポートを介してPCやタッチパネル、その他デバイスを1つのシステムに統合できます。これにより、指定したコンピューターソースに対して、USB周辺機器ポートに接続したデバイスやキーボード／マウスの操作を個別に切り替えられます。

選択可能な表示モード(マトリックス、ミラー、PIP*)

3つの異なる表示モードで、各種イベントやプレゼンテーションのニーズに対応します。

注意: PIPモードは最大1080pの解像度をサポートします。

ソースプレビュー機能

接続中のコンテンツを事前にメニュー画面で確認できるため、目的の映像を素早く特定し、切り替えられます。これにより、接続先を推測する手間が不要になります。

特長

シンプルなマルチフォーマットAV切替

- 9系統のマルチフォーマット入力と2系統のHDMI出力を搭載
 - 3系統のコンポ入力(HDMI/VGA、HDMI/DisplayPort、HDMI/AV/YPbPr)
 - 3系統のHDMI専用入力
- VGAポートはユニバーサルアナログ入力(RGBHV/RGBs/YCbCr/YPbPr)に対応
- オーディオのエンベッド/ディエンベッド機能を搭載
 - HDMI/DisplayPortオーディオをデジタルまたはアナログオーディオとして抽出可能
 - ステレオ/コンポジット/コンポーネントオーディオをデジタルオーディオに埋め込み可能

HDビデオを最適な状態で出力

- 最大解像度: 4K@60Hz(4:2:0)または4K@30Hz(4:4:4) (HDMI/DP)
- EDID Expert™(EDIDエミュレーション)機能搭載。自動または手動でEDIDモードを選択し、電源投入時のスムーズな表示と最適な映像品質を実現
- HDMI(3D、Deep Color、4K)対応、HDCP 1.4準拠

汎用的で合理的な操作

- 複数の操作方法に対応: フロントパネルのプッシュボタン、RS-232、メニュー画面、IRリモコン
- ソースプレビュー機能で、目的のコンテンツを素早く確認・切替可能
- マトリックス、ミラー、PiPなど、表示モードを選択して高速切替
- 自動切替機能により、新しいソース接続を即座に検出して切替を実行
- スタンバイモード対応で、省電力と高速起動を両立

USB周辺機器の柔軟性を拡張

本体のUSBポートを活用し、PCやタッチパネル、各種USBデバイスを効率的に操作できます。

- 本体USBポート経由でPCやタッチパネルを操作可能
- キーボード／マウスとUSB周辺機器の制御を、指定したコンピューターソースごとに個別切替

セットアップの計画

必要な機器

VP1920をセットアップする前に、以下の機器とケーブルをご用意ください。

ソースデバイス(PC、Blu-rayプレーヤー、VCRプレーヤー、TVボックスなど
HDMI対応機器)

- ソースデバイスとVP1920を接続する適切なケーブル
- ディスプレイデバイス
- ディスプレイデバイスとVP1920を接続するHDMIケーブル

オプション機器

必要に応じて、以下の機器をご用意ください。

- 外部ストレージとして使用するUSBドライブ
- ソース1およびソース2のコンピューターにアクセスするためのキーボードとマウス
- RS-232インターフェース経由でVP1920を設定するためのソフトウェアまたはハードウェアコントローラー

各接続インターフェースに装備されているポートの数については、製品仕様を参照してください(p.45)。

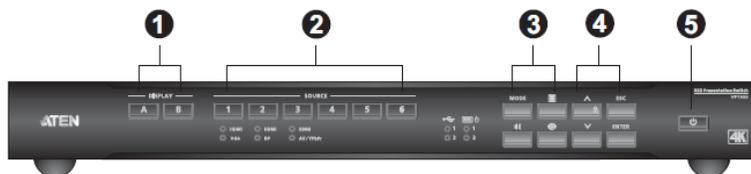
第2章 ハードウェアのセットアップ



1. この装置の設置に関する安全上の注意 (p.41)を参照してください。
2. 必要な機器すべての接続が終わるまで、VP1920Iに電源を入れないでください。

製品各部名称

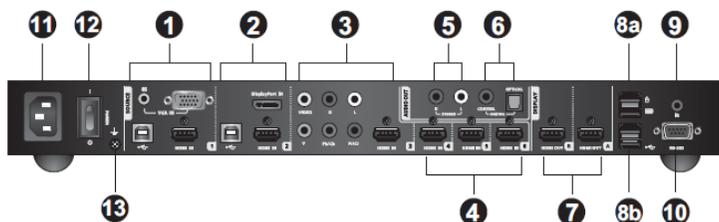
フロントパネル



番号	名称	説明
1	ディスプレイ選択 プッシュボタン	使用するディスプレイを選択します。
2	電源選択 プッシュボタン	選択中のディスプレイに対して映像ソースを選択します。入力1-3は、複数回ボタンを押すと入力ソースを変えることが出来ます

番号	名称	説明
3	機能プッシュボタン	<ul style="list-style-type: none"> : 表示モード設定のメニュー画面を開きます。詳細については、p.18「表示モードの設定」を参照してください。 : <ul style="list-style-type: none"> VP1920のシステム設定のメニュー画面を開きます。詳細については、p.22「システム設定」を参照してください。 プッシュボタンを2回押すと、メニュー画面を閉じます。 : ローカルオーディオ出力のソースを設定するメニュー画面を開きます。 : 現在の表示モードのプレビューを有効にします。詳細については、p.17「ミラーモードのソースの変更」を参照してください。
4	ナビゲーションプッシュボタン	<ul style="list-style-type: none">  : <ul style="list-style-type: none"> メニュー画面を上下に移動します。  を押すと、パネルプッシュボタンをロックまたはロック解除します。VP1920でパネルプッシュボタンを自動的にロックするように設定することもできます。詳細については、p.20「パネルプッシュボタンのロック」を参照してください。 : メニュー画面内の項目で次の設定に進んだり、設定を選択したりします。 : メニュー画面の前のレベルに戻ります。
5	スタンバイプッシュボタン	このボタンを押すと本体の電源オン/スタンバイを切り替えます。

リアパネル



番号	名称	説明
1	ソース1	ステレオオーディオ入力付きのVGA入力とHDMI入力から構成されるコンボポートです。同時に2つのソースデバイスを接続できますが、ボタンで片方を選択します。
2	ソース2	DisplayPort入力とHDMI入力から構成されるコンボポートです。同時に2つのソースデバイスを接続できますが、ボタンで片方を選択します。
3	ソース3	A/V入力またはコンジット入力とHDMI入力から構成されるコンボポートです。同時に2つのソースデバイスを接続できますが、ボタンで片方を選択します。
4	ソース4~6	HDMIソースを接続します。
5	ステレオオーディオ出力	スピーカーを接続します。
6	デジタルオーディオ出力	光オーディオ出力ポートまたは同軸オーディオ出力ポート経由でスピーカーを接続します。
7	HDMI出力ポート	HDMIディスプレイを接続します。
8a	USB Type-A (1.1)ポート	キーボードとマウスを接続します。
8b	USB Type-Aポート	外部ストレージとして使用するUSBドライブを接続します。
9	IRレシーバーポート	IRレシーバーに接続して、IRリモコンからIR信号を受信します。
10	RS-232シリアルポート	ハードウェアまたはソフトウェアコントローラーに接続してシリアルデータを送信します。
11	電源入力	ACコードを接続して、VP1920Iに電源を供給します。

番号	名称	説明
12	電源スイッチ	VP1920の電源オン/オフをします。
13	グラウンドターミナル	VP1920を接地して、電源サージや静電気による損傷を防ぎます。

注意:

ソース1・2・3は複数の入力信号を受けられますが、出力できるのは同時に1系統だけです。

IRリモコン

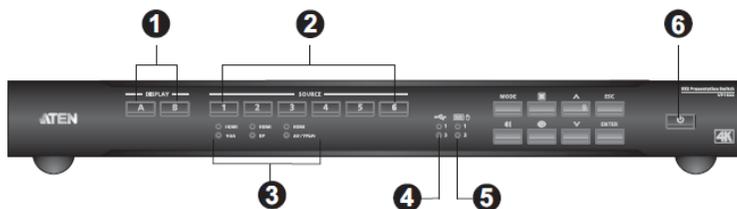


番号	ボタン	説明
1	オン/オフボタン	VP1920の電源をオンまたはオフにします。
2	ソースボタン	ソースボタンを押すと、選択中のディスプレイにソースを割り当てます。
3	ナビゲーションボタン	<ul style="list-style-type: none">   : これらのボタンを押すと、メニュー画面の上下に移動します。  : このボタンを押すと、メニュー画面の前のレベルのオプションに戻ります。  : このボタンを押すと、次のオプションレベルに進むか、オプションを選択します。
4	表示ボタン	ボタンを押すと、そのボタンに対応したディスプレイを選択します。

番号	ボタン	説明
5	ファンクションボタン	<ul style="list-style-type: none"> • モード  : <ul style="list-style-type: none"> • 表示モードの設定を開きます。表示モードの詳細については、p.18「表示モードの設定」を参照してください。 • 表示モードメニューを開いているときにこのボタンを押すと、オプションが変わります。 • メニュー  : <ul style="list-style-type: none"> • VP1920のシステム設定メニューを開きます。システム設定の詳細については、p.22「システム設定」を参照してください。 • ボタンを2回押すと、メニュー画面を閉じます。 • オーディオ  : ローカルオーディオ出力のソースを設定するメニュー画面を開きます。 • プレビュー  : 現在の表示モードのプレビューを有効にします。詳細については、p.17「ミラーモードのソースの変更」を参照してください。

LEDインジケータ

VP1920のLEDは下図のようにフロントパネルに付いています。LED表示の詳細については、下表を参照してください。

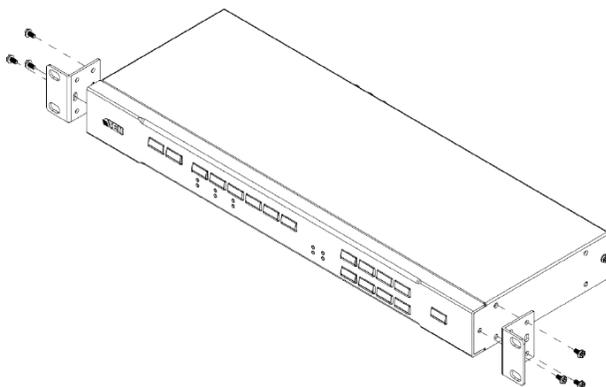


番号	LED	表示	システムの状態
1	表示プッシュボタン	オレンジ点灯	選択中のディスプレイデバイス(ディスプレイAまたはディスプレイB)を表します。
2	ソースプッシュボタン	緑色点灯	表示用に選択されているソースを表します。
3	ソースLED	緑色点灯	コンボポートの出力として選択されているソースを表します。
4	USB LED	オレンジ点灯	接続中のUSBドライブは、指定されたソースデバイス(ソース1または2)からアクセスできます。
5	キーボード/ マウスLED	オレンジ点灯	接続中のキーボードとマウスの制御が、指定されたソース(ソース1またはソース2)に切り替わります。
6	電源プッシュボタン	緑色点灯	VP1920に電源が入っています。
		オレンジ点灯	VP1920はスタンバイモードです。

ラックへのマウント

VP1920は、19インチのシステムラックに1Uサイズで設置できます。フロントパネルのプッシュボタンにアクセスしやすいよう、本体の前面を外側に向け、ラックの前面側に取り付けてください。

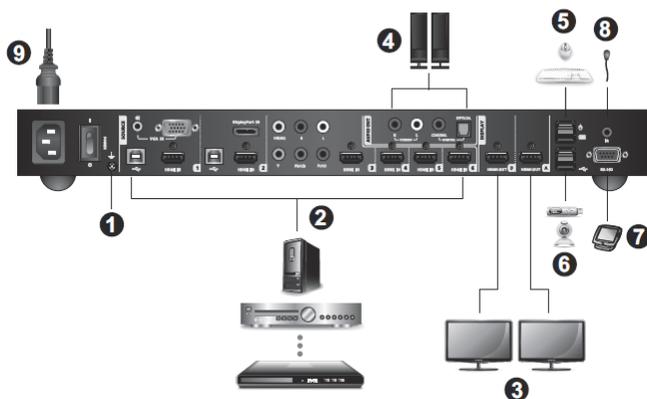
1. ラックマウントキットに付属のM3×6プラス六角ネジを使用して、ラックマウント用ブラケットをVP1920本体のフロントパネルに取り付けます。



2. VP1920本体をラックのフロント側に固定し、ラックのネジ穴とマウント用ブラケットの穴を合わせます。
3. マウント用ブラケットをラックのフロント側にネジで固定します。

セットアップ

次の手順に従って、VP1920Iにソースデバイスとディスプレイデバイスを安全な方法で取り付けてください。



1. VP1920本体を接地線で接地します。接地線の片方の端をグラウンドターミナルに接続し、もう片方の端を適切な接地物に接続します。

注意:

この手順は省略しないでください。適切に接地を行うことで電圧変化や静電気による機器の誤動作防止や破損防止に一定の効果があります。

2. 製品本体にソースデバイスを接続します。

注意:

異なるインターフェースのソースを、ソース1～3それぞれに接続し、必要に応じて任意のソースを選択することができます。各コンポポートのソース切替方法については、p.15「表示ソースの切り替え」を参照してください。

3. HDMIケーブルで、VP1920のHDMIポートにディスプレイデバイスを接続します。

注意:

異なるインターフェースのソースを、ソース1~3それぞれに接続し、必要に応じて任意のソースを選択することができます。各コンボポートのソース切替方法については、p.15「表示ソースの切り替え」を参照してください。

4. オーディオデバイスを、ステレオオーディオ出力ポートまたはデジタルオーディオ出力ポートに接続します。

注意:

使用するディスプレイが1台だけの場合は、メニュー画面メニューが表示されるディスプレイAに接続してください。

5. ソース1またはソース2として接続されたコンピューターにアクセスするキーボードとマウスを、VP1920のUSB Type-A(1.1)ポートに接続します。
6. ソース1またはソース2として接続されたコンピューターで使用するUSB周辺機器を、VP1920のUSB Type-Aポートに接続します。
7. RS-232コマンドでVP1920の設定を行う場合は、VP1920をハードウェアまたはソフトウェアコントローラーに接続します。RS-232コマンドの詳細については、p.29「第4章 RS-232シリアルコマンド」を参照してください。
8. IRリモコンを使用してVP1920を操作する場合は、付属のIRレシーバーをIRレシーバーポートに接続します。
9. 電源コードを電源ソケットに差し込み、VP1920の電源スイッチをオンにします。
10. 接続されているデバイスの電源を入れます。

第3章 操作方法

概要

この章では、VP1920のメニュー画面の機能と、フロントパネルのプッシュボタンおよびIRリモコンを使用してVP1920をローカルで操作する方法について詳しく説明します。

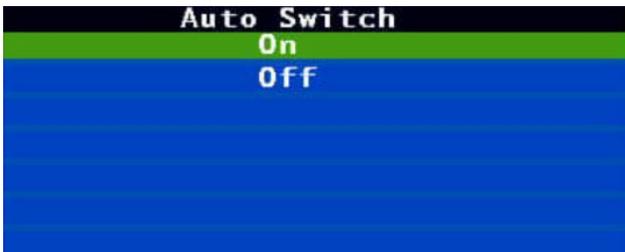
操作に関する考慮事項

- IRリモコンを有効範囲(6m)内で使用し、リモコン本体と、VP1920に接続されているIRレシーバーの間に遮るものがないことを確認してください。
- IRリモコンとVP1920のフロントパネルは、同じ操作機能を提供します。必要に応じてどちらかの方法を使用してください。

表示ソースの切り替え

自動切替

デフォルトでは、VP1920は新しいソースが検出されると、すぐにディスプレイAへと自動で切り替わります。自動切替を無効にするには、「メニュー」ボタン/プッシュボタンを押して、「ソース」>「自動切替」の順に選択し、設定を無効にします。



手動切替

IRリモコンとフロントパネルのプッシュボタンを使用して、表示ソースを手動で切り替えることができます。

1. ディスプレイがミラーモードに設定されている場合は、この手順をスキップします。
「表示」ボタン/プッシュボタンを押して、使用するディスプレイを選択します。選択したディスプレイのプッシュボタンはオレンジ色で点灯します。

注意:

ディスプレイがPiPモードに設定されている場合、メインディスプレイを選択するには「ディスプレイA」プッシュボタンを押します。また、インセットウィンドウを選択するには「ディスプレイB」プッシュボタンを押します。

2. 「ソース」ボタン/プッシュボタンを押して、選択中のディスプレイにソースを割り当てます。選択したソースのプッシュボタンは緑色で点灯します。

注意:

コンボポート(ソース1~3)では、最後に接続された入力が自動的に出力ソースとして選択されます。ソースを手動で変更する場合は、「ソース」ボタンまたはプッシュボタンを2回押してください。選択中のソースは、対応するLEDが緑色に点灯して示します。優先順位を変更する場合は、メニュー画面の「ソース」設定を使用します。詳細は、p.22「システム設定」を参照してください。

ミラーモードのソースの変更

ディスプレイがミラーモードの場合、ミニプレビューウィンドウのリストからソースを選択できます。ディスプレイのソースを選択・変更する手順は以下のとおりです。

1. 「プレビュー」ボタンを押し、使用可能なソースをミニプレビューウィンドウに表示します。
2. 「UP」「DOWN」ボタンで目的のソースを選択します。選択したソースはリストから外れます。
3. 「Enter」ボタンを押して選択を確定します。ソースが即座に割り当てられます。

表示モード

表示モードとは

VP1920に2台のディスプレイを接続した場合、以下のモードから選択できます。

- **マトリックスモード(デフォルト設定):** 各ディスプレイに異なるソースを割り当てます。
- **ミラーモード:** ディスプレイAのソースをディスプレイBにも表示します。
- **ピクチャーインピクチャーモード(PiP):** ディスプレイBのソースを、ディスプレイAの画面内にミニウィンドウとして表示します。

表示モードの設定

デフォルトでは、VP1920はマトリックスモードに設定されています。表示モードを変更するには、以下の手順に従ってください。

注意:

PiPモードに変更する前に、まずメインソース(全画面表示)をディスプレイAに割り当てます。次に、サブソースをディスプレイBに割り当ててから、以下の手順に進んでください。

1. 「モード」ボタン/プッシュボタンを押して、モード設定をディスプレイAに表示します。
2. 「モード」ボタン/プッシュボタンを押して、オプションを順に切り替えます。
3. 「Enter」ボタン/プッシュボタンを押して、オプションを選択します。選択したモードは即座に適用されます。



PC/ノートパソコン/タブレットの操作

VP1920にキーボードとマウス、PC、ノートパソコン、タブレットを接続すると、そのキーボード/マウスで各機器を操作できます。

ハードウェアのセットアップ

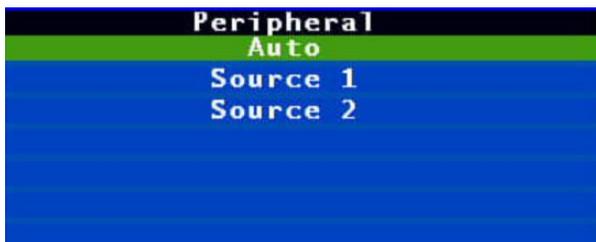
以下の手順に従って、VP1920を、ソース、ディスプレイデバイス、および電源に安全な方法で取り付けてください。

1. VP1920の搭載インターフェース(VGA、DisplayPort、またはHDMI)に応じて、PCまたはノートパソコンをVP1920のソース1またはソース2に接続します。
2. デバイスを、手順1で使用したVP1920のソースグループのUSBホストポートにUSBケーブルで接続します。
3. VP1920のリアパネルにキーボードとマウスを接続します。キーボードとマウスは、必ず指定されたUSBポートに接続してください。

操作方法

デフォルトでは、VP1920はディスプレイAに表示されているソースに、自動で制御を切り替える設定になっています。例えば、ソース1にノートパソコンを接続し、その映像がディスプレイAに表示されている場合、VP1920に接続したキーボードとマウスでノートパソコンを操作できます。このとき、キーボード/マウスおよび周辺機器のLED「1」がオレンジ色に点灯し、制御がソース1に切り替わります。これにより、ソース1のデバイス(ノートパソコン)がVP1920に接続したUSBデバイスへアクセス可能になります。

機密データの漏洩を防ぐには、USB周辺機器のアクセス先を特定のソースに制限し、ディスプレイAにそのソースが割り当てられている場合のみ許可する設定が有効です。設定を変更するには、「メニュー」ボタンを押し、「USB」>「周辺機器」に移動して「ソース1」または「ソース2」を選択します。



パネルプッシュボタンのロック

ボタンの誤操作によって設定が変更されるのを防ぐために、パネルのプッシュボタンをロックすることができます。

手動ロック

ロックするには、ロックアイコン()が赤く点灯するまで、 プッシュボタンを長押しします。ロックを解除するには、ロックアイコンが消灯するまで、 プッシュボタンを長押しします。

自動ロック

パネルのプッシュボタンを自動でロックするには、以下の手順に従って操作してください。

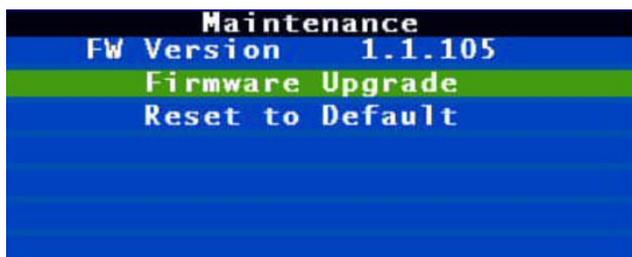
1. 「メニュー」ボタン/プッシュボタンを押して、システム設定メニューを表示します。
2. 「全般設定」>「パネルの自動ロック」に移動したら、パネルのプッシュボタンがロックされるまでのアイドル時間を選択します。プッシュボタンがロックされると、 プッシュボタンのロックアイコン()が赤色に点灯します。



ファームウェアアップグレード

以下の手順で、メニュー画面操作またはRS-232コマンドを使用してシステムファームウェアモードに入り、PCからアップグレードアプリを実行して更新します。

1. PCをVP1920に接続し、必要なソフトウェアを設定します。詳細については、p.29「セットアップ」を参照してください。
2. 製品ホームページにアクセスして、以下をダウンロードします。
 - 必要に応じたファームウェアファイル
 - ファームウェアアップグレードユーティリティプログラム
3. ダウンロードしたファイルをPCに保存します。
4. 次のいずれかの方法で、ファームウェアアップグレードモードを有効にします。
 - VP1920のメニュー画面で、「メンテナンス」>「ファームウェアアップグレード」に移動し、設定を有効にする。
 - アップグレード用のRS-232コマンドを実行する。
5. PCからファームウェアアップグレードユーティリティを実行し、画面の指示に従ってアップグレードを開始します。

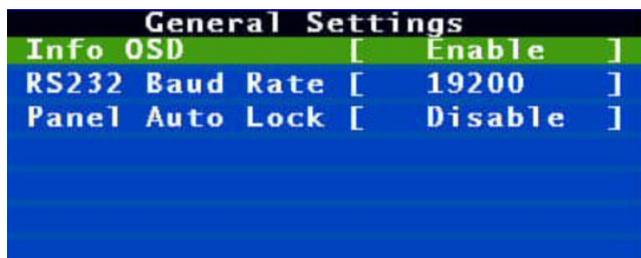


システム設定

システム設定にアクセスするには、以下の手順に従ってください。

1. 「メニュー」ボタン/プッシュボタンを押して、システム設定メニューをディスプレイAに表示します。
2. 設定したい項目に移動します。
3. 「Enter」ボタン/プッシュボタンを押してオプションを選択します。選択されたオプションは、設定する値として角カッコで表示されます。

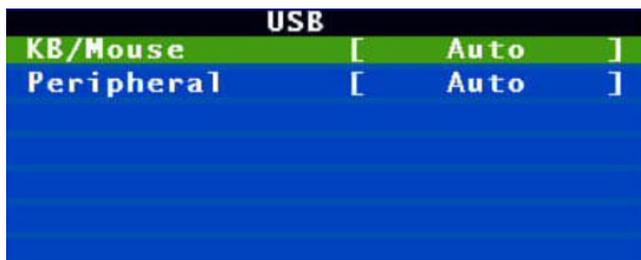
全般設定



VP1920の設定の概要については、下表を参照してください。

システム設定		説明
注意: デフォルト設定は太字で記載しています。		
全般	情報メニュー画面	<ul style="list-style-type: none">• 有効• 無効 ディスプレイAとディスプレイBの現在のソース、オーディオ、I/O、および表示モードの設定を表示します。
	RS-232ボーレート	<ul style="list-style-type: none">• 9600• 19200• 38400• 115200 RS-232のボーレートを設定します。
	パネル自動ロック	<ul style="list-style-type: none">• 5秒後• 30秒後• 5分後• 無効 VP1920がパネルを自動ロックするまでの時間を設定します。パネルのプッシュボタンがアイドル状態になったまま、ここで選択した時間が経過すると、パネルが自動的にロックされます。

USB



VP1920の設定の概要については、下表を参照してください。

システム設定		説明
注意:デフォルト設定は太字で記載しています。		
USB	キーボード/マウス	<ul style="list-style-type: none">• 自動• ソース1• ソース2 <p>コンソールキーボードとマウスで操作するソースを設定します。</p> <p>注意:この機能を有効にするには、対象のソースをディスプレイAに割り当ててください。</p> <p>「自動」を選択すると、ディスプレイAに割り当てられているソースが、1または2の時に操作できます。</p>
USB	周辺機器	<ul style="list-style-type: none">• 自動• ソース1• ソース2 <p>USB周辺機器にアクセス可能なソースを設定します。この機能を有効にするには、選択したソースをディスプレイAに割り当ててください。</p> <p>「自動」を選択すると、ディスプレイAに割り当てられているソース1または2を選択しているVP1920に接続している機器を利用できます。</p> <p>注意:ソースデバイスとして使用するノートパソコン、PC、またはタブレットは、VP1920のUSBホストポートに接続してください。</p>

オーディオ



VP1920の設定の概要については、下表を参照してください。

システム設定			説明
注意: デフォルト設定は太字で記載しています。			
オーディオ	ソース	<ul style="list-style-type: none"> • ディスプレイA • ディスプレイB 	VP1920のオーディオソースを設定します。
	入出力	<ul style="list-style-type: none"> • すべて • S/PDIF /同軸 • L/R 	許可する出力タイプ(ステレオ、デジタル、または両方)を設定します。
	ミュート	<ul style="list-style-type: none"> • 有効 • 無効 	VP1920をミュートまたはミュート解除します。

ソース

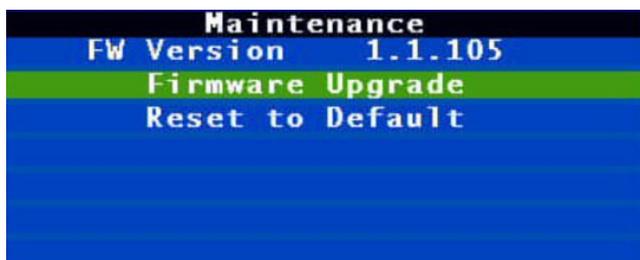
Source	
Auto Switch	[On]
Source 1	[Auto]
Source 2	[Auto]
Source 3	[Auto]
EDID	[Display A]

VP1920の設定の概要については、下表を参照してください。

システム設定			説明
注意: デフォルト設定は太字で表記しています。			
ソース	自動切替	<ul style="list-style-type: none"> • オン • オフ 	この機能を有効にすると、ディスプレイAが新規接続のソースへと自動的に切り替わります。
	ソース1	<ul style="list-style-type: none"> • 自動 • HDMI • VGA 	ソース1の入力ソースを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 自動: ソース1は新たに検出されたソースに自動で切り替わります。 • HDMIまたはVGA: ソース1はHDMIまたはVGAソースをデフォルトとします。

システム設定			説明
注意: デフォルト設定は太字で記載しています。			
ソース	ソース2	<ul style="list-style-type: none"> • 自動 • HDMI • DisplayPort 	<p>ソース2の入力ソースを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動: ソース2は新たに検出されたソースへと自動的に切り替わります。 • HDMIまたはDisplayPort: ソース2はHDMIまたはDisplayPortソースをデフォルトとします。
	ソース3	<ul style="list-style-type: none"> • 自動 • HDMI • AV / YPbPr 	<p>ソース3の入力ソースを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動: ソース3は新しく検出されたソースに自動的に切り替わります。 • HDMIまたはAV/YPbPr: ソース3はHDMIまたはAV/YPbPrソースをデフォルトとします。
	EDID	<ul style="list-style-type: none"> • ディスプレイA • リミックス • デフォルト 	<ul style="list-style-type: none"> • ディスプレイA: ディスプレイAのEDID情報を表示ソースに送信します。 • リミックス: 2台のディスプレイのEDIDを比較し、共通で利用できる解像度のEDIDに変更しソース機器側へ回答するようになります • ATENデフォルト: 本体内蔵のプリセットEDIDを表示ソースに送信します。

メンテナンス



VP1920の設定の概要については、下表を参照してください。

システム設定		説明
注意:デフォルト設定は太字で記載しています。		
メンテナンス	ファームウェアアップグレード	ファームウェアアップグレードモードを有効にします。詳しいアップグレード手順については、p.21「ファームウェアアップグレード」を参照してください。
	デフォルトへのリセット	VP1920をデフォルト設定に戻します。

メニュー画面の終了

メニュー画面を終了するには、「終了」に移動して[Enter]キーを押します。



システム設定	説明
注意: デフォルト設定は太字で記載しています。	
終了	メニュー画面を閉じます。

第4章

RS-232シリアルコマンド

概要

VP1920は、ハードウェアまたはソフトウェアコントローラーから送信されるRS-232コマンドを使って、システムの操作や設定を行うことができます。

セットアップ

1. PCをVP1920のRS-232シリアルポートに接続します。
2. RS-232シリアル制御とコントローラーPCのOSに対応しているコントローラーソフトウェアをダウンロードしてインストールします。
3. ソフトウェアを実行し、以下の接続設定を行います。
 - 接続するシリアルライン: **COM1**
 - 速度(ボーレート): **19200**
 - データビット: **8**
 - ストップビット: **1**
 - パリティ: **なし**
 - フロー制御: **なし**
4. VP1920とのセッションが確立されると、RS-232コマンドを送信してVP1920を設定できます。コマンドの一覧については、p.30「コマンドのガイドライン」を参照してください。

コマンドのガイドライン

- コマンドの一般的な形式は、次のとおりです。

コマンド パラメーター <引数> {1|2|3}

表記	説明
コマンド	コマンドの名前は太字で記載しています。
パラメーター	パラメーターの名前です。
<引数>	値の名前、またはユーザーが指定しなければならない情報です。入力するのは山カッコの中にある情報だけです。カッコ自体は入力しないでください。
[]	オプション項目です。 カッコ内の情報を入力するだけで、カッコ自体は入力しません。
{ }	ユーザーが選択しなければならないオプションです。
	コマンドラインで、相互に排他的な2つ以上の選択肢を示します。コマンドラインでは、選択肢の1つだけを入力し、記号は入力しません。

- 2つ以上のパラメーターがある場合、これらのパラメーターの順序は演算結果に影響しません。例えば、次のコマンドはどちらも同じタスクを実行します。

コマンド名+パラメーター1+パラメーター2

コマンド名+パラメーター2+パラメーター1

コマンド

システムファームウェアバージョンコマンド

構文: `version`

機能: VP1920のファームウェアバージョンを表示します。

読み取りコマンド

構文: `read`

機能: すべての出力ポートのEDIDモード、VP1920のシステム情報(デバイス名、ベンダー、シリアル番号、ハードウェアバージョン、ビルドバージョン)、およびネットワーク設定を表示します。

ソース切替コマンド

構文: `sw i<input_port> o<output_port>`

コマンド機能:

指定したディスプレイのソースを、指定したソースに切り替えます。

パラメーター:

- `i<input_port>`
 - **説明:** ターゲットソースの入力ポートを指定します。このパラメーターを省略すると、システムは値01(入力ポート1)を使用します。
 - **フォーマット:** 01~06
- `o<input_port>`
 - **説明:** ターゲットディスプレイの出力ポートを指定します。このパラメーターを省略すると、システムは値01(ディスプレイA)を使用します。

・ **フォーマット:**

フォーマット	説明
01	ディスプレイA
02	ディスプレイB
*	ディスプレイAおよびディスプレイBの両方

例:

- ・ sw i03 o02と入力すると、ディスプレイBのソースを、入力ポート2に接続されたソースに切り替えます。
- ・ sw i05と入力すると、ディスプレイAのソースを、入力ポート5に接続されたソースに切り替えます。
- ・ sw o02と入力すると、ディスプレイBのソースを、入力ポート1に接続されたソースに切り替えます。

自動切替コマンド

注意:

自動切替はディスプレイAのみをサポートし、設定した表示モードに応じて次のように動作します。

- **マトリックスモード:**
ディスプレイAのみが自動切替をサポートします。
 - **ミラーモード:**
ディスプレイBはディスプレイAと同じソースを表示します。
 - **ディスプレイAをPiPモードに設定:**
自動切替をサポートするのはメインウィンドウのみです。自動切替はミニウィンドウには適用されません。
-

構文1: `swmode next|off`

コマンド機能:

すべての入力ポートを自動切替に設定します。自動切替を有効にすると、次のコマンドの設定が実行されます。

- `swmode plugout next|off`
- `swmode plugin next|off`

パラメーター:

- `next`: 自動切替を有効にします。
- `off`: 自動切替を無効にします。

構文2: `swmode i<input_port> next|off`

コマンド機能:

指定されたコンボポート(ソース1~3)を自動切替に設定します。自動切替を有効にすると、次のコマンドの設定が実行されます。

- `swmode i<input_port> plugout next|off`
- `swmode i<input_port> plugin next|off`

パラメーター:

- `i<input_port>`
 - **説明:**ターゲットソースの入力ポートを指定します。
 - **フォーマット:**01~03
- `next`: 自動切替を有効にします。
- `off`: 自動切替を無効にします。

構文3: `swmode plugout next|off`

コマンド機能:

現在のソースがVP1920から取り外された場合、またはソースの電源がオフになった場合に、ディスプレイAのビデオソースの自動切替を有効または無効にします。

パラメーター:

- `next`: 自動切替を有効にします。
- `off`: 自動切替を無効にします。

構文4: `swmode plugin next|off`

コマンド機能:

新規ソースの接続時におけるディスプレイAのビデオソースの自動切替を、有効または無効にします。

パラメーター:

- `next`: 自動切替を有効にします。
- `off`: 自動切替を無効にします。

構文5: `swmode i<input_port> plugout next|off`

コマンド機能:

現在のソースがVP1920から取り外された場合、またはソースの電源がオフになった場合に、指定したコンボポート(ソース1~3)を自動切替に設定します。ディスプレイAがコンボソース(ソース1~3)のソースを表示していて、現在のソースがVP1920から取り外されたり、ソースの電源がオフになったらすると、ディスプレイAは他の利用可能なソースへと自動的に切り替わります。

パラメーター:

- `i<input_port>`
 - **説明:**ターゲットソースの入力ポートを指定します。
 - **フォーマット:**01~03
- `next`: 自動切替を有効にします。
- `off`: 自動切替を無効にします。

注意:

ソース3のY/Pb/Prポートは、ソース3のAV Inがソース信号に接続されている場合、プラグアウト自動切替機能をサポートしていません。

構文6: `swmode i<input_port> plugin next|off`

コマンド機能:

指定したコンボポート(ソース1~3のいずれか)を自動切替に設定します。ディスプレイAがコンボソース(ソース1~3)を表示していて、新規ソースがコンボソースに接続された場合、ディスプレイAは新しいソースに自動的に切り替わります。

注意:

ソース3のY/Pb/Prポートは、ソース3のAV入力がソース信号に接続されている場合、プラグイン自動切替機能をサポートしません。

パラメーター:

- ◆ `i<input_port>`
 - ◆ **説明:** ターゲットソースの入力ポートを指定します。
 - ◆ **フォーマット:** 01~03
- ◆ `next`: 自動切替を有効にします。
- ◆ `off`: 自動切替を無効にします。

例:

- ◆ デフォルト設定は次のとおりです。
 - ◆ `swmode plugin next`
 - ◆ `swmode plugin off`
 - ◆ `swmode next`

新規ソースの接続時にのみ自動切替を実行します。

- `swmode next`と入力すると、すべての入力ポートを自動切替に設定します。VP1920の任意の入力ポートに新規ソースが接続されると、入力ポートはコマンド `swmode swmode plugin next| off` の指示どおりに動作します。
- `swmode i02 next`と入力すると、ソース2を自動切替に設定します。入力ポート2に新規ソースが接続され、ディスプレイAが入力ポート2のソースを表示している場合、ディスプレイAは新しいソースに切り替わります。

ディスプレイコマンドの有効化/無効化

構文: `sw o<output_port> on|off`

コマンド機能:

指定したディスプレイデバイスにおけるソース表示を、有効または無効にします。

パラメーター:

- `o<input_port>`
 - **説明:** ターゲットディスプレイの出力ポートを指定します。
 - **フォーマット:**

フォーマット	説明
01	ディスプレイA
02	ディスプレイB
*	ディスプレイAおよびディスプレイBの両方

- `on`: 機能を有効にします。
- `off`: 機能を無効にします。

表示モードコマンド

構文: **display** matrix | mirror | pip

コマンド機能:

VP1920の表示モードを指定のモードに設定します。

パラメーター:

- matrix:
これはデフォルト設定です。このモードを選択すると、接続ディスプレイデバイスに異なるソースを割り当てます。
- mirror:
このモードを選択すると、ミラービューを生成します。このモードでは、ディスプレイAのソースが自動的にディスプレイBに割り当てられます。
- pip:
このモードを選択すると、合成表示を生成します。このモードでは、ディスプレイBのソースがディスプレイAにミニウィンドウとして挿入されます。

EDIDモードコマンド

構文: **edid** default | port1 | remix

コマンド機能:

指定したソースの暗号化(HDCP)を有効または無効にします。

パラメーター:

- default: 事前定義したEDIDを表示ソースに送信します。
- port1: ディスプレイAのEDID情報を表示ソースに送信します。
- remix: 接続ディスプレイの中で最適なEDIDをソースに送信します。

HDCP認証コマンド

構文: `sw i<input_port> hdcp on|off`

コマンド機能:

指定したソースの暗号化(HDCP)を有効または無効にします。

パラメーター:

- `i<input_port>`
 - **説明:** ターゲットソースの入力ポートを指定します。
 - **フォーマット:** 01~06

CECステータスコマンド

構文: `cec on|off`

コマンド機能:

CECを有効または無効にします。

パラメーター:

- `on`: 機能を有効にします。
- `off`: 機能を無効にします。

ミュートコマンド

構文: `mute on|off`

コマンド機能:

VP1920のオーディオ出力をミュートにします。

パラメーター:

- `on`: オーディオをミュートにします。
- `off`: VP1920のミュートを解除します。

ボーレートコマンド

構文: baud 9600|19200|38400|115200

コマンド機能:

ボーレートを指定の値に設定します。

スタンバイモードコマンド

構文: standby on|off

コマンド機能:

スタンバイモードを有効または無効にします。

パラメーター:

- on: 機能を有効にします。
- off: 機能を無効にします。

デフォルト復元コマンド

構文: reset

コマンド機能:

システム設定をデフォルト値に戻します。

ファームウェアアップグレードコマンド

構文: upgrade

コマンド機能:

ファームウェアアップグレードモードを有効にします。手順の詳細については、p.21「ファームウェアアップグレード」を参照してください。

安全にお使いいただくために

全般

- 本製品は、屋内での使用に限ります。
- 製品パッケージに同梱のすべてのドキュメントに目を通してください。またドキュメント類はすべて保存してください。
- デバイスに記載されている警告や指示に従ってください。
- デバイスを不安定な面(カート、簡易スタンド、テーブルなど)に置かないでください。デバイスが落下すると、深刻な損傷が生じます。
- デバイスを水の近くで使用しないでください。
- デバイスを冷却装置や加熱機器の近く、またはその上に置かないでください。
- デバイスは、マーキングラベルに示されたタイプの電源で動作させる必要があります。利用可能な電源の種類がご不明な場合は、販売店もしくは最寄りの電力会社にお問い合わせください。
- システムへの損傷を避けるために、すべてのデバイスを適切に接地することが重要です。
- 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。電源コードやケーブルを踏んだり、これらにつまずいたりしないよう、配線してください。
- 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は15アンペアを超えないようにしてください。
- 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置

(UPS)をご使用ください。

- 映像・ネットワーク・電源用のケーブルは、丁寧に取り扱いってください。ケーブルの上には何も置かないでください。
- キャビネットの空きスロットに物を押し込まないでください。危険な電圧ポイントへの接触や、部品のショート、また、火災や電氣的な衝撃の危険性があります。
- 本体の端子に物を押し込まないでください。危険な電圧ポイントへの接触や、部品のショート、また、火災や電氣的な衝撃の危険性があります。
- 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。すべての保守については、適格な保守担当者に問い合わせてください。
- 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水に濡れた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。他のコントロールの不適切な調整は、修理する資格のある技術者による広範な作業を必要とする損傷をもたらす可能性があります。

ラックへのマウント

- ラックでの作業を行う前に、スタビライザーがラックと床に固定されていることと、ラックの重心が安定していることを確認してください。
- ラックへの機器搭載は、必ず下から上に向かって行ってください。また、最も重いアイテムを下から搭載してください。
- デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ラックに供給する電源が過負荷にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は最大でも80%を越えないように設定する必要があります。
- ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ラックからの排熱やラックへの通気が十分に行えるようにしてください。
- 本製品で定められている保管温度の範囲内で使用できるように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

技術サポート

インターナショナル

- ・ オンラインでの技術サポート(トラブルシューティング、マニュアル、およびソフトウェアアップデートを含む)の場合: <http://support.aten.com>
- ・ 電話によるサポートについては、p.iiを参照してください。

北米

Eメールサポート		support@aten-usa.com
オンライン テクニカルサポート	ドキュメント ソフトウェア更新 トラブルシューティング	http://www.aten-usa.com/support
電話によるサポート		1-888-999-ATEN ext 4988 1-949-428-1111

お問い合わせいただく際には、あらかじめ以下の情報を用意しておいてください。

- ・ 製品型番、シリアル番号、購入日
- ・ オペレーティング・システム、リビジョン・レベル、拡張カード、およびソフトウェアを含むコンピューター構成
- ・ エラー発生時に表示されるエラーメッセージ
- ・ エラーに至るまでの操作の順序
- ・ 他にも役立つと思われる情報

仕様

機能		VP1920
ビデオ入力		
インターフェース		HDMI Type-A メス × 6 (Black) DP メス × 1 (Black) HDB-15 メス × 1 (Blue) コンポーネント(RCA メス × 3, Blue/Green/Red) コンポジット(RCA メス × 1, Yellow)
ビデオ出力		
インターフェース		HDMI Type-A メス × 2 (Black)
最大距離		HDMI: 最大15m
ビデオ		
最大解像度	HDMI	最大4096 × 2160 / 3840 × 2160 @ 60 Hz(4:2:0); 最大4096 × 2160 / 3840 × 2160 @ 30 Hz(4:4:4);
	DP	最大4096 × 2160 / 3840 × 2160 @ 30Hz(4:4:4)
	VGA/アナログ	最大1920 × 1200 @ 60 Hz
規格準拠		HDMI(3D、Deep Color、4K) HDMI/DP: HDCP 1.4 準拠、CEC
オーディオ		
入力	ステレオオーディオ	ステレオミニジャック メス × 1 (Green)
	コンポジット/ コンポーネント オーディオ	RCA メス × 2 (Red/White)
出力	光オーディオ	Toslink × 1 (Black)
	同軸オーディオ	RCA メス × 1 (Orange)
	ステレオオーディオ	RCA メス × 2 (White/Red)

機能		VP1920
コネクタ		
コンピューター		USB Type-B メス × 2 (White)
コンソールポート	キーボード/ マウス	USB Type-A メス × 2 (White)
	デバイス	USB Type-A メス × 2 (Blue)
電源		3極AC電源ソケット × 1
制御		
RS-232		DB-9 メス × 1 (Black)
IR		ステレオミニジャック メス × 1 (Black)
スイッチ		
電源		プッシュボタン × 1 ロッカースイッチ × 1
ビデオ入力ポート選択		プッシュボタン × 6
ビデオ出力ポート選択		プッシュボタン × 2
選択	モード	プッシュボタン × 1
	メニュー	プッシュボタン × 1
	UP (ロック解除)	プッシュボタン × 1
	Esc	プッシュボタン × 1
	オーディオ	プッシュボタン × 1
	プレビュー	プッシュボタン × 1
	DOWN	プッシュボタン × 1
	Enter	プッシュボタン × 1
LED		
ビデオ	ソース1	HDMI / VGA (2, Green)
	ソース2	HDMI / DP (2, Green)
	ソース3	HDMI / AV/YPbPr (2, Green)
USBリンク	キーボード/マウス	2 (Orange)
	デバイス	2 (Orange)
EDID 設定		EDIDモード: デフォルト/ディスプレイA/リミックス

機能	VP1920
電源	
最大入力電力定格	100-240 VAC; 50-60Hz; 1.0A
消費	AC110V; 7.3W; 60BTU/h AC220V; 7.3W; 60BTU/h 注意: <ul style="list-style-type: none"> ◆ ワット単位の測定値は、外部負荷がない場合におけるデバイスの標準的な消費電力を示します。 ◆ BTU/h単位の測定値は、フル負荷時におけるデバイスの電力消費量を示します。
動作環境	
動作温度	0~40°C
保管温度	-20~60°C
湿度	0~80%RH、結露なきこと
ケース	
ケース材料	メタル
重量	2.36 kg (5.20 lb)
サイズ(W×D×H)	43.72 cm×16.36 cm×4.40 cm

© 著作権2024ATEN®International Co., Ltd.
リリース:2024-04-22

ATENおよびATENロゴは、ATEN International Co., Ltd.の登録商標です。無断転載を禁じます。その他すべてのブランド名および商標は、それぞれの所有者の登録商標です。